



## どうするクラス替え 替える？ 替えない？

愛着の話は1回休みです。前号からの続きは次号となります。

さて、年が明け次年度に向けた準備が本格化していく時期に入りました。その中で、クラス替えについての話題は、子どもや保護者にとっても大きな関心事です。

中学校では、2年生への進級時は全校がクラス替えを行い、3年生への進級時については、学校ごとに基本方針はあるにしても、各年度の生徒の状況を踏まえて、クラス替えを行う場合と行わない場合があるのが一般的です。

小学校では、2年ごと（3・5年生に進級時）に替える学校と、毎年替える学校のいずれかに大きく二分されています。必ずしも前年踏襲とする必要はなく、また、隔年か毎年かの二者択一でもありませんので、例えば、次のような在り方も可能ではあります。



小1	⇒	小2	⇒	小3	⇒	小4	⇒	小5	⇒	小6
替える		替えない		替える		替える		替えない		

上の例は、縦断的に見れば、ある学年の6年間のクラス替えの経過を、横断的に見れば、ある年度の各学年のクラス替えの有無を示すという、二通りの意味を有しています。

方針自体がコロコロ変わるのであれば落ち着きませんが、「年度ごとにクラス替え実施の有無を全学年検討する」ことを方針に据え、現況を踏まえて判断する方法もあるわけです。

特に、一部の子による負の影響が大きいなどにより学級がうまく機能しない状況や、学級内の交友関係で苦しんでいる子がいる状況などでは、慎重に考える必要があります。

このような状況にあって、隔年でのクラス替えの方針を貫いて学級担任のみ代えるケースも見られますが、新担任のもとで劇的に改善する場合もあれば、困難な状況は変わらず新担任が疲弊する場合があります（後者が多い印象です）。もちろん、現担任や子どもたちの意向も無視はできませんが、状況を客観的に捉えての、正に**総合的判断**が求められます。

居心地の良い学級の子どもたちには、クラス替えは納得しがたく、反発も予想されますが、心身共におおむね健康で学校生活に適応している大半の子は、クラス替えで環境が変わっても、自らの適応力を発揮して、比較的短期間で新しい環境に馴染み、新たな人間関係を築いていけるものです。もちろん、新たに配慮を要する子も生じますが…。

クラス替えを巡っては何かと物議を醸すことになりやすいことから、学校の方針や、いつ頃までに決定・通知するかなど大まかな見通しを、前もって子どもや保護者に周知しておくといよいでしょう。



### 小1プロブレム対策として、こんな例も…

#### 小1の4月は仮学級でスタート 5月から新学級で正式スタート

不適応行動が顕著な児童が特定の学級に集中してしまうのを防ぐため、年度当初の学級は機械的に割り振って編制した仮学級とし、4月中の学校生活の状況をもとに学級編制作業を実施、連休明け頃を目安に正式に学級開きを行う小学校が、全国にはいくつかあります。

学級数の増減が微妙な人数状況で、事前に2通りの学級編制作業を同等の時間をかけて行い、基準日の人数次第でクラス替えを行う煩わしさと比べれば、負担は多少軽いかも知れませんが、

担当 学校生活適応支援アドバイザー（飯山・大瀧）  
TEL 639-4392